

天草の農業・漁業発展のために
何が必要か



浜崎義昭
議員

浜崎 農林水産業の分野において、生産物・水揚げ量等の不振や生活・生産環境の立ち遅れ、耕作放棄地の増大などから、就業機会の減少、人口の流出・減少、著しい高齢化といった問題が顕著化している。この状況をどのように考えているか。

経済部長 耕作放棄地は、約2千haとなっている。平成23年度まで、80ha解消した。解消後の作物は、オリーブ、果樹、野菜の栽培、放牧などに取り組んでいる。

浜崎 地域の特性（自然・食品・再生可能エネルギー・生物資源等）を活かした研究開発を行うための研究機関の誘致を行うべき。

経済部長 研究機関の誘致は、重要な取り組みの一つと認識しているが、地理的条件などで困難な面もある。

浜崎 地元（あまくさ）で古くから利用された食品を発掘・新商品として開発、安心・安全な食材の推進は行えないか。

天草の自然界に自生しているものに目を向け発掘支援していくべき（郷土料理・漁業者へ商品開発支援）。

経済部長 地元食材を使った商品が引き続き伸びることを期待する。

浜崎 も場造成・環境保全・漁場機能維持管理などの事業は、四方を海に囲まれているこの天草において重点的に取り入れるべきもの。国の支援事業・再生事業の取り入れは、積極的に行われるべき。農林水産省予算概算要求の中に、多くの事業があるので市でも活用すべき（漁港・漁村活性化対策、有害生物漁業被害防止総合対策事業、日本沿岸域藻場再生モニタリング事業、小水力等農村地域資源利用促進事業などがある）。

経済部長 議員がお調べいただいたように多くのメニューがあり、優先順位を付け、関係機関と協議を行い検討していく。



牛深港

天草の未来を拓く
『人』づくりについて



福嶋啓子
議員

福嶋 天草市教育振興基本計画に放課後子どもプランがある。本市では、小学校の余裕教室を活用した児童クラブはあるか。

教育部長 現在のところ、小学校の余裕教室を活用した児童クラブはない。

福嶋 今回の質問のきっかけは、天草市男女共同参画を推進する団体の「つんでネット〜風〜」にコーディネーターの2人の女性が企画を練り、タウンミーティングを開催し、現地視察を行い、綿密な計画を立て、ぜひ、本市において、子どもたちの安全を考えた、小学校の余裕教室を活用した児童クラブを立ち上げたいとの強い要望があったからであり、



水俣第一小学校の児童クラブ

たちから自発的に出てきた計画である。ぜひ、来年度から実現できるように、また、今後各地の小学校でこのような要望があったときは、教育委員会としても積極的に対応していただくようお願いしたい。

教育長 小学校の余裕教室などを使つての放課後児童クラブの実施については、実施時間、警備上の問題など、これから検討していくべき事項が多々あると思うが、お世話いただく児童クラブの方及び学校現場と十分協議しながら対応可能な範囲で進めていきたい。

福嶋 先日の「天草市長ローカルマニフェスト評価・検証大会」で市長は民間でできることはやっていただき、市としても応援したいと話されていたが。

市長 市民から自発的に行動を計画されているということは、大変ありがたいことである。今回の件に関しては、教育委員会あるいは現場の先生方ともよく相談・協議をされて、進めていただきたい。

人口減少と農業振興について



大塚基生
議員

大塚 基幹産業である農林水産業で人口減少に歯止めをかけ、雇用の場の創出は、極めて厳しい状況である。国の「人・農地プラン」の説明を。

経済部長 地域の将来について話し合つて策定する、地域の将来計画は、経営体へどう農地を集め、それ以外の農業者も含めた、地域産業の5年後の目標を定め、集積計画表を字図に示す。メリットとして農地集積協力金の交付、青年就農給付金等が受けられる。

【農業公社の設立について】
大塚 耕作放棄地対策には、公社に農地を集積し、作業道や小規模土地改良を実施し、貸し出しが必要ではないか。

市長 「農業担い手公社設立プロジェクト」を発足させ、職員により検討を進めるとともに、市産業振興協議会でも「農業担い手公社」の必要性について協議をお願いしている。新たな組織として「農業担い手公社」を設立し、雇用の場の創出と天草農業の活性化を実現

できるといふ検討しているところ。

【農業マスタープランについて】
大塚 地域が将来計画を策定するなら、市も基幹産業である農業、農村の将来像と農業振興の基本方針を示すべきではないか。

市長 総合計画基本構想、基本計画、実施計画などに基つき、農業行政を展開してきた。農業の現状と課題を把握し、重点的に取り組む内容を計画的に推進するため、基本計画の農業部門をもとにして、農業に関する行動計画の作成に向け取り組む。

【夢を語って形にする】

大塚 農業、農村のあり方について農業者、JA職員、行政職員がともに夢を語り、夢の実現に向け、行政上の課題や法制度上の問題、補助金などについて解決し、汗をかき、知恵を出し、論議をし、実現することが、合併の目標であった「住民と協働によるまちづくり」「自主自立」「特色ある地域づくり」につながっていくのではないかと思う。

◎全国市議会議長会永年勤続議員表彰◎

平成24年度の全国市議会議長会の総会において、中村・本田両議員が、永年にわたり地方自治の発展に寄与した功績により表彰されました。おめでとうございます！



本田武志 議員
(15年表彰)

議員歴
・昭和63年6月25日（有明町議会議員に初当選）
～平成18年3月26日まで
・5期17年10ヶ月
（町議会議員の勤続年数は市議会議員の1/2で換算される）
・平成18年4月24日（天草市議会議員に当選）

本田議員より一言 地域の問題、そして生業である農業問題打開のため、浅学非才の身も省みず、有明町議会議員に立候補したのが、血気盛んな30代後半の頃でありました。あれから25年、市町合併時には市議会議員に推挙いただき、今回は、議長も務めることができました。これもひとえに皆様のご支援のおかげであり、感謝申し上げる次第であります。



中村五木 議員
(25年表彰)

議員歴
・昭和61年7月28日（牛深港市議会議員に初当選）
～平成18年3月26日まで
・5期19年9ヶ月
・平成18年4月24日（天草市議会議員に当選）

中村議員より一言 第88回全国市議会議長会定期総会において市議会議員として25年の特別表彰を受けました。これもひとえに関係各位のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。今後とも私の政治信条であります「地域の均衡ある発展を目指して」全力で行動してまいります。